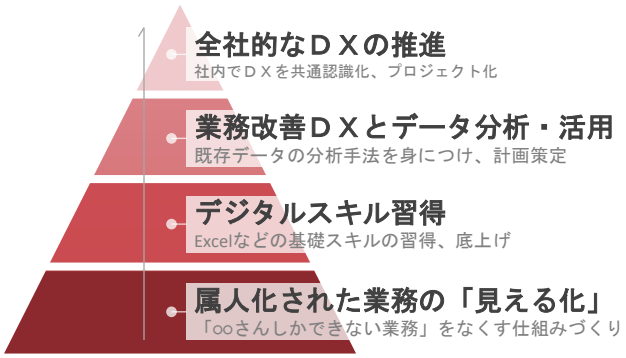
ＤＸ成功のカギは「人づくり（教育）」

insource デジタルアカデミー
2025 ver.1

ＤＸとは

デジタル技術を活用して業務を効率化するだけでなく、
企業文化やビジネスモデル**そのものを変革する取組み**です。

デジタル化
≠
DX
デジタル　トランスフォーメーション



※以下に各フェーズごとのおすすめ研修も掲載しています

いくつ当てはまりますか？

いますぐチェック

チェック項目	✓ チェック
新しいツールやシステムを導入した場合でも、全社員が抵抗なく活用できている	☐
ＤＸ担当者が現場を熟知しているため、業務改善がスムーズに進んでいる	☐
具体的なＤＸの計画が策定されており、取り組むべきことが明確である	☐
定型業務は自動化が進んでおり、本来取り組むべき業務に時間をかけられている	☐
多くの業務が標準化されており、属人化している仕事がほとんどない	☐

０～１個：ＤＸはこれからの段階です。ＤＸの重要性について、まずは全社員が理解するところから始めましょう。
２～３個：ＤＸが少しずつ浸透しつつあります。活用したいデジタルツールの使い方など、できるところから企画・推進しましょう。
４～５個：変革の土台ができています。新規事業やサービス開発など、新たな価値創造を目指しましょう。

ＤＸ実現までのフェーズごと研修実施例

※以下は一例です。他にも多数のご用意がありますので、お気軽にご用命ください。

01 属人化された業務の「見える化」

- 業務フロー作成研修
  ～業務の見える化で効率アップ
- 生産性向上研修
  ～仕事の見える化でムダなく成果につなげる
- 課題設定力研修
  ～全社的な課題を見極めて最適化する

02 デジタルスキル習得

- ChatGPTを活用したビジネス文書研修
  ～文書作成の新スタンダードを学ぶ
- Microsoft Office研修
  ～ExcelとPowerPoint
- Python学院
  ～基本文法編／プログラミング未経験から業務への活用方法を学ぶ

03 業務改善ＤＸとデータ分析・活用

- じっくり学ぶデータサイエンス研修
  ～ビジネス教養としてのデータ活用
- 情報活用力研修
  ～データ分析の基礎知識を習得する
- ビジネスデータの分析研修

04 全社的なＤＸの推進

- ＤＸ推進研修
  ～５ステップで今日から始める
- ＤＸ推進のための業務改革研修
  ～デジタル活用の視点を持つ
- ＤＸ企画力研修
  ～操作性に優れたツールをイメージする

ＤＸ成功のカギは「人づくり（教育）」

insource デジタルアカデミー
2025 ver.1

日本のＤＸは遅れている！？

ＩＭＤ（国際経営開発研究所）が世界デジタル競争力ランキングを発表。
２４年の日本の総合順位は、６７の国・地域の中で３１位だった。

２４年デジタル競争力	
１位	シンガポール
２位	スイス
３位	デンマーク
４位	米国
５位	スウェーデン
⋮	
31位	日本

■なぜ遅れているのか

デジタル人材の採用難
外部採用が難しく、社内人材のリスキリングの取組みが十分に進んでいない。

管理職層のリテラシー不足
既存の管理職層がデジタル化に対して慎重で、意思決定が遅れる。また、ＤＸの目的や戦略が、組織内で共通認識化できていない。

変革を阻む現場風土
デジタルツールを導入しても、現場のスキルやマインドが不足しており、逆にオペレーションが停滞してしまう。

【ご参考】デジタル研修ランキング

■公開講座受講者数ランキング

1	Microsoft Office研修～Excel応用編
2	Microsoft Office研修～Excel基礎編
3	Microsoft 365 Copilotの使い方研修
4	人を動かすPowerPoint資料の作り方研修
5	（新入社員・新社会人向け）Excel研修

※2025年4月の受講者数より集計

Excel研修は今も根強い人気。Microsoft 365や資料作成研修も、業務の質を高める内容として注目されています。

■おすすめランキング

1	ＤＸ理解・推進研修
2	ビジネス活用のためのＲＰＡ研修
3	ビジネスデータの分析研修
4	業務フロー作成研修
5	じっくり学ぶCopilot体験研修

RPAやデータ分析に加え、Copilotなど生成AIを活用する研修も。現場の効率化・変革を支える実践的な内容が注目されています。

STEP1　ＤＸの第一歩は自社を知ること

D 社員のデジタルリテラシーを可視化

・組織全体や部署・役職ごとのレベルを把握
・社員一人一人のリスキリングテーマを理解
・デジタルの素養がある人材を顕在化

X 社内の変革マインドを定量化

・DX推進における組織課題を把握
・熱意ある社員を選出
・変革への動機づけ

「DXリテラシー標準」令和5年8月改訂版 準拠

DXリテラシーアセスメント

■導入事例
国立大学法人 九州大学
対象　全職員(教員を除く)約1,200名
ＤＸリテラシーの可視化と強化を目的として実施

詳細はこちら

本アセスメントは、右記の２つの領域で構成されています。

測定領域

■ＤＸマインド・スタンス領域
・変化への対応力
・コラボレーション力
・実験を繰り返す力
・問題発見、課題形成力
・事実、データに基づく判断力

■ＤＸリテラシー領域
・社会変化へのデジタル対応の理解力
・データ活用と分析力
・デジタル技術理解力
・デジタル技術の利活用力
・セキュリティ、コンプライアンス

STEP2　パーソナライズ学習で最適化

全員に同じ教材・進度で進める従来の方法では、理解度や意欲に差が出やすい。パーソナライズ学習は、一人ひとりの理解度や興味に合わせて学習を最適化できるため、意欲を高め、効果的な学びを実現できます。

個々人の状況に合わせて、多くの選択肢を与えられればデジタルも進む！

■公開講座（オープンセミナー型研修）

常時開催	6 都市 ※1
カリキュラム数	4,487 種類 ※1
年間実施回数	13,557 回 ※2

※1 2024年12月末時点　※2 2024年1月～2024年12月

■ｅラーニング（豊富な種類の動画コンテンツ）

TYPE 01	講師登壇型（冊子教材付き）
TYPE 02	講師登壇型（ワイプ映像）
TYPE 03	スライド型
TYPE 04	ケース映像型
ラインナップ	1,100 タイトル以上

※2025年2月末時点

上記の他に、研修内容を個社向けにカスタマイズできる「講師派遣」での研修実施も可能です。
お客さまのご要望に合わせて、さまざまな形式でのご提供ができますので、まずはご相談ください。